

## 小金井市における自殺の特徴

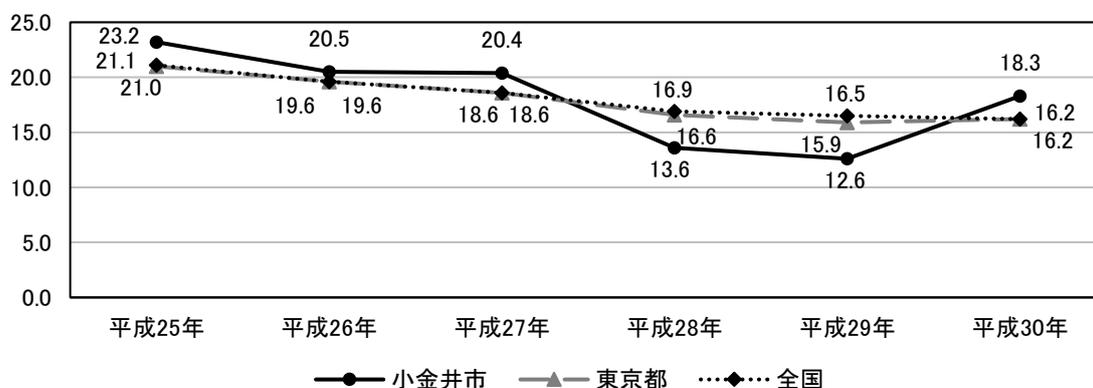
# 1 小金井市における自殺者の現状

## (1) 自殺死亡率の推移

自殺死亡率\*の推移は、平成 25 年から平成 27 年にかけて小金井市の自殺死亡率が東京都・全国よりも高く、平成 28 年と平成 29 年は小金井市が東京都・全国よりも低くなっています。平成 30 年は、小金井市が東京都・全国を上回り 18.3 となっています。

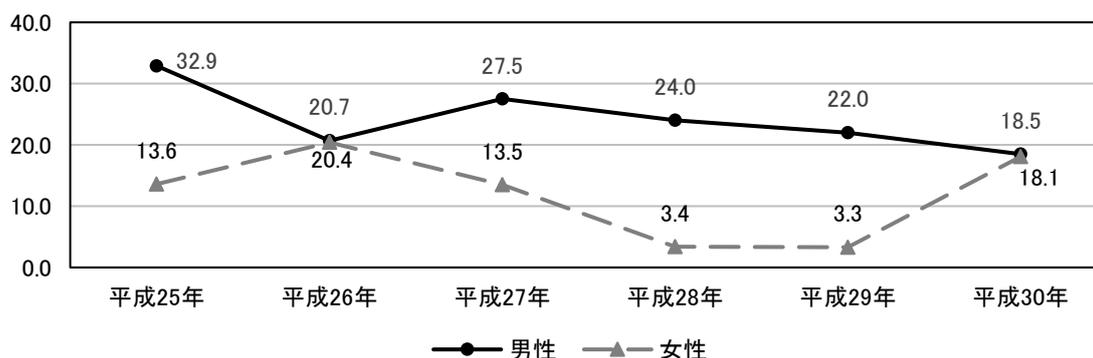
小金井市における男女別自殺死亡率の推移は、いずれの年度も「男性」が「女性」より高くなっています。

図表 自殺死亡率の推移



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

図表 小金井市における男女別自殺死亡率の推移



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

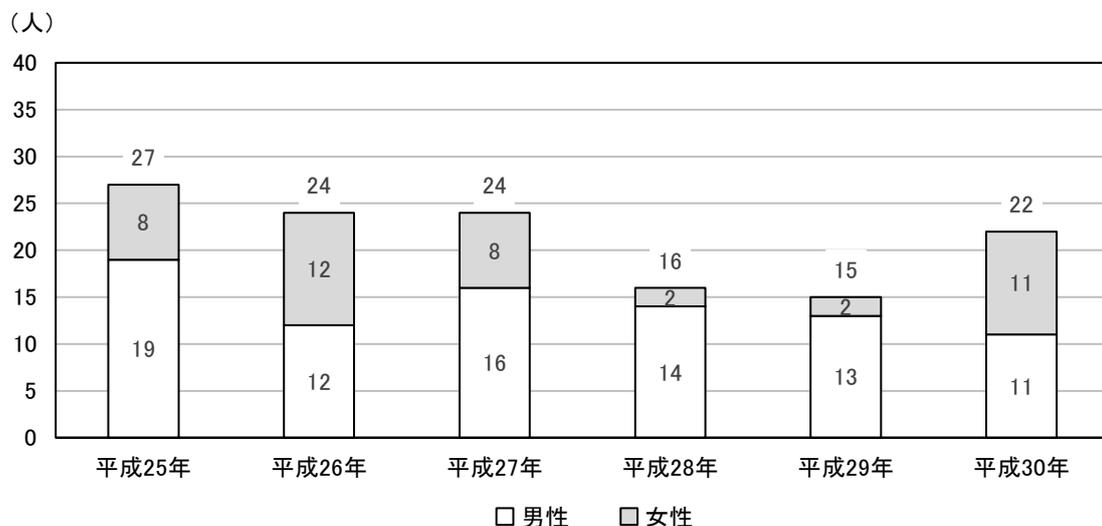
\* 人口 10 万人当たりの自殺者数のことです。

## (2) 自殺者数の推移

小金井市における自殺者数の推移は、平成25年の27人をピークに平成29年には15人まで減少しています。しかし、平成30年には増加して22人となっています。平成25年から平成30年の年間平均自殺者数は21.3人となっています。

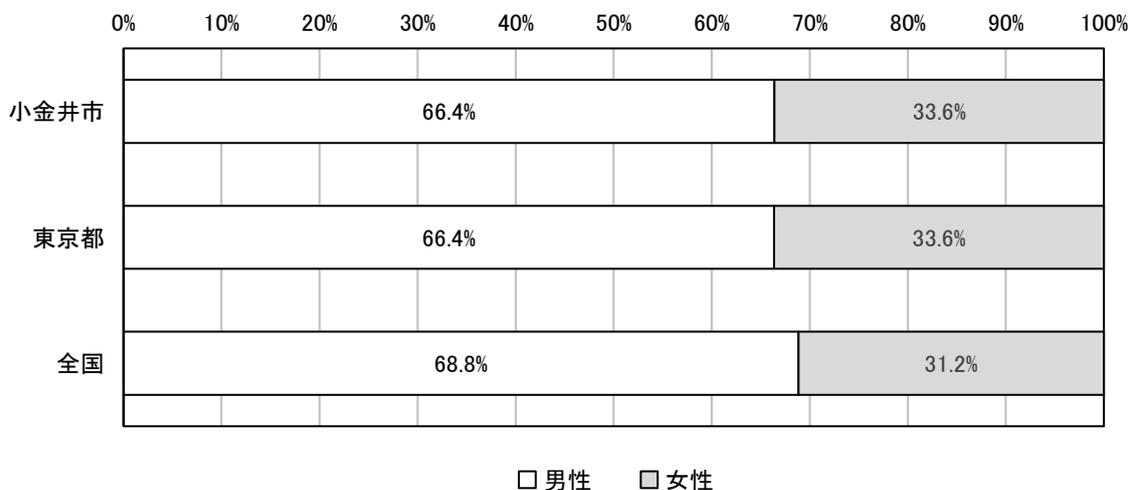
自殺者数の性別割合を比較すると、小金井市・東京都は男女の割合が同程度となっています。全国と比べると「女性」の割合がわずかに高くなっています。

図表 小金井市における自殺者数の推移



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

図表 性別自殺者数の割合の比較（平成25年から平成30年の合計値）



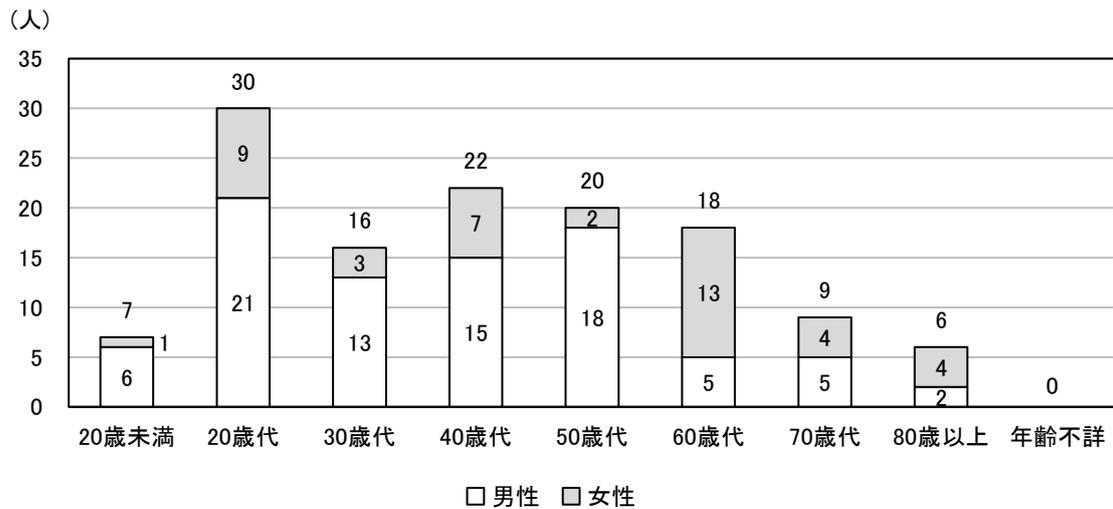
出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

### (3) 年代別自殺者数（平成 25 年から平成 30 年の合計値）

小金井市における年代別自殺者数は、「20 歳代」が最も多く 30 人となっており、次いで「40 歳代」が 22 人、「50 歳代」が 20 人となっています。

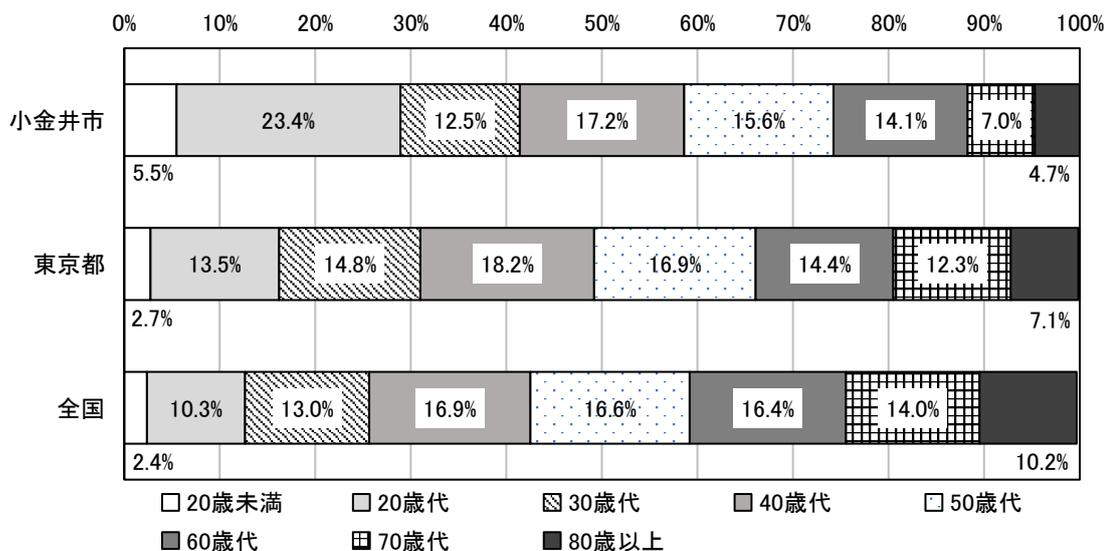
年代別自殺者数の割合を比較すると、「20 歳未満」と「20 歳代」において小金井市は東京都・全国の割合を上回っています。

図表 小金井市における年代別自殺者数



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

図表 年代別自殺者数の割合の比較



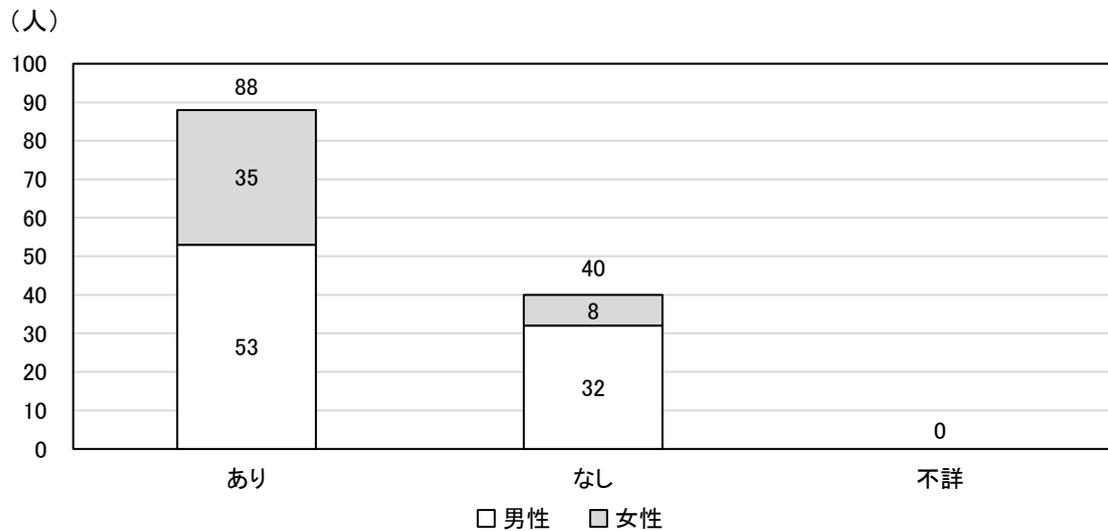
出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

#### (4) 同居人の有無別自殺者数（平成 25 年から平成 30 年の合計値）

小金井市における同居人の有無別自殺者数は、同居人「あり」が 88 人、同居人「なし」が 40 人となっています。

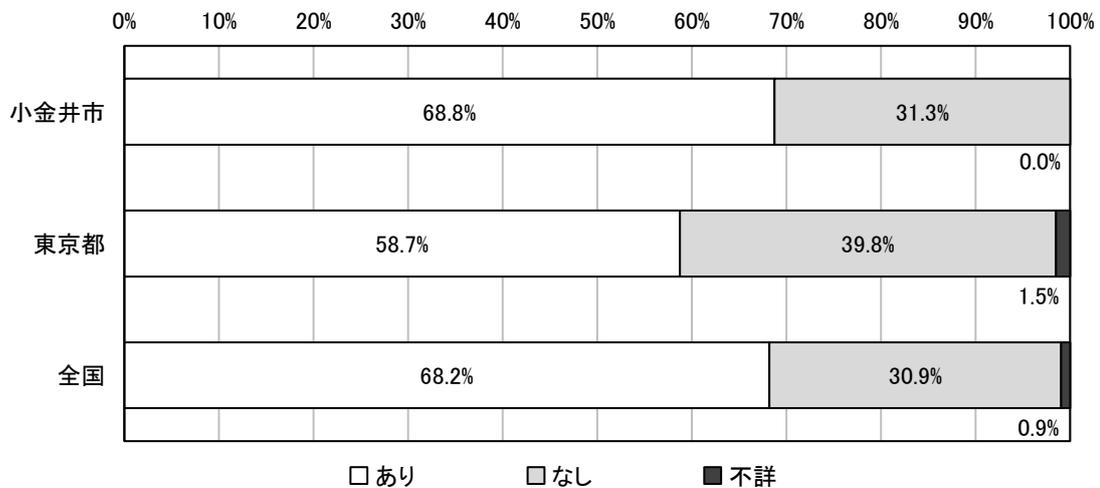
同居人の有無別自殺者数の割合を比較すると、同居人「あり」の割合が東京都より 10.1 ポイント高く、全国より 0.6 ポイント高くなっています。

図表 小金井市における同居人の有無別自殺者数



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

図表 同居人の有無別自殺者数の割合の比較



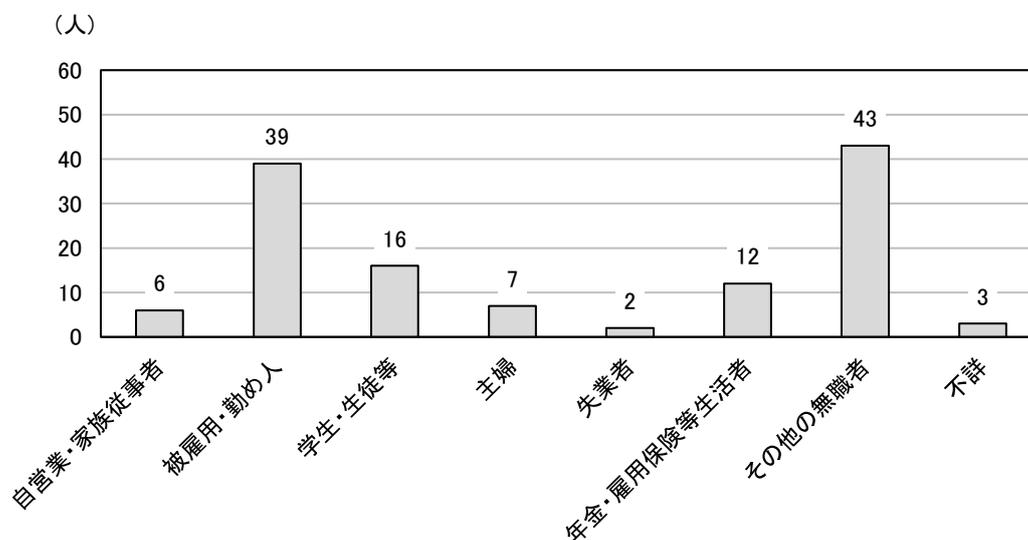
出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

## (5) 職業別自殺者数（平成 25 年から平成 30 年の合計値）

小金井市における職業別自殺者数は、「その他の無職者」が 43 人と最も多く、次いで「被雇用・勤め人」が 39 人、「学生・生徒等」が 16 人となっています。

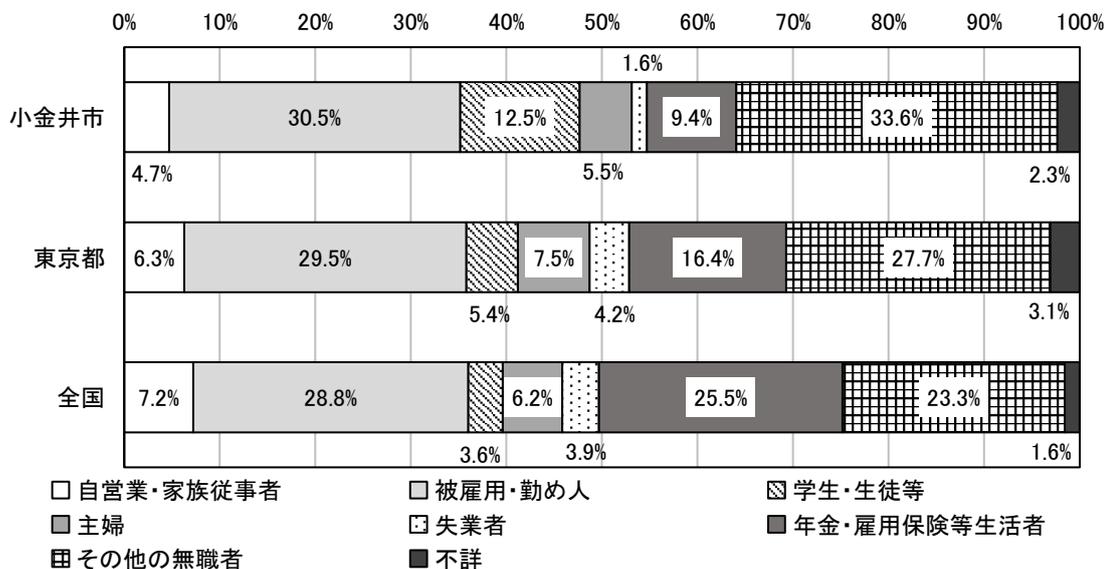
職業別自殺者数の割合を比較すると、「被雇用・勤め人」、「学生・生徒等」、「その他の無職者」において、小金井市は東京都・全国の割合を上回っています。特に、「学生・生徒等」の割合は東京都の 2 倍以上、全国の 3 倍以上となっています。

図表 小金井市における職業別自殺者数



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

図表 職業別自殺者数の割合の比較



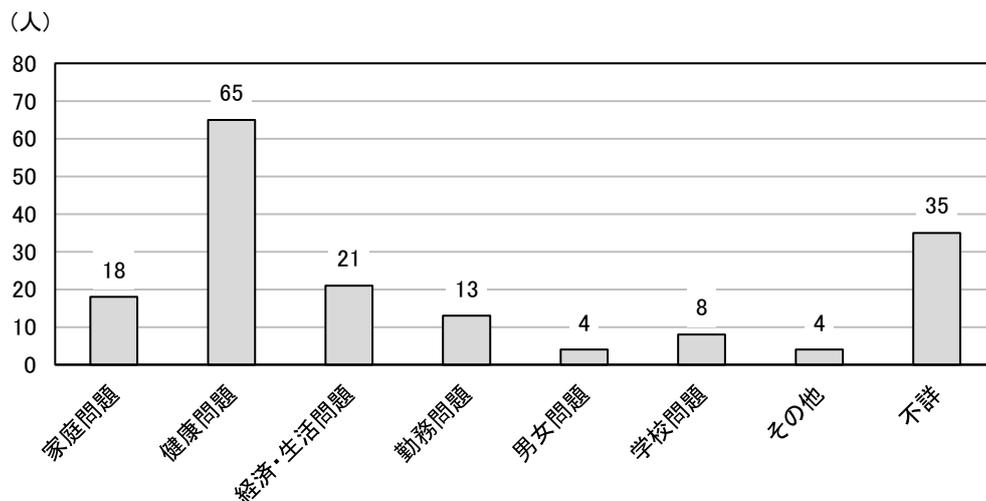
出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

## (6) 原因・動機別自殺者数（平成 25 年から平成 30 年の合計値）

小金井市における原因・動機別自殺者数は、「健康問題」が 65 人と最も多く、次いで「経済・生活問題」が 21 人、「家庭問題」が 18 人となっています。

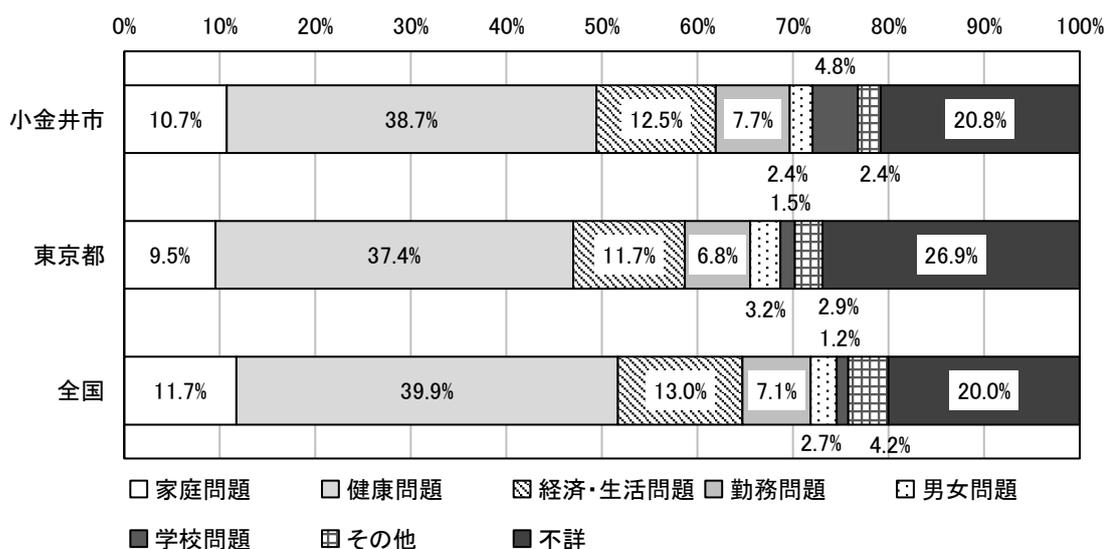
原因・動機別自殺者数の割合を比較すると、「勤務問題」、「学校問題」において、小金井市は東京都・全国の割合を上回っています。

図表 小金井市における原因・動機別自殺者数



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

図表 原因・動機別自殺者数の割合の比較



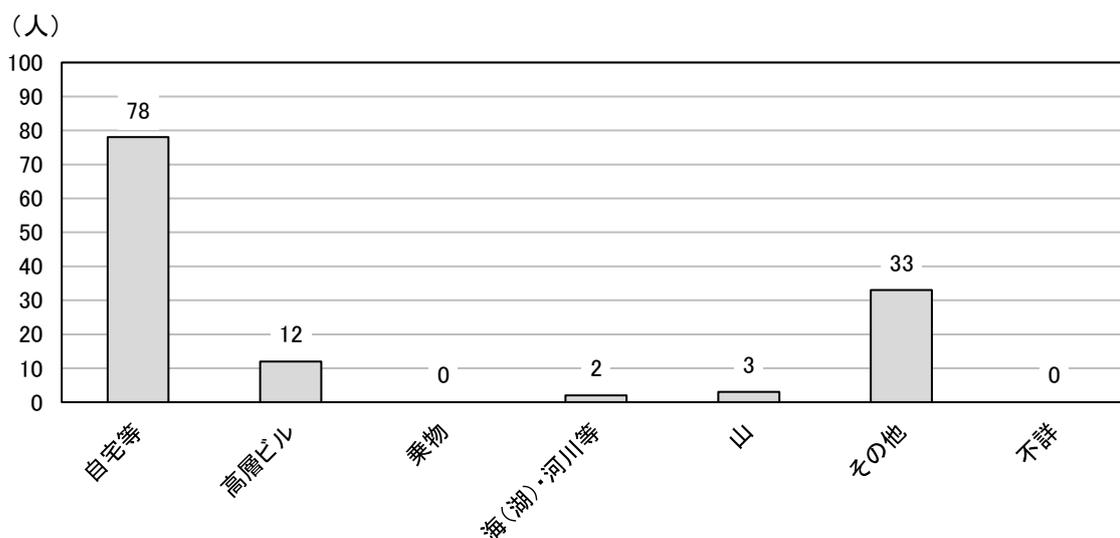
出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

## (7) 自殺企図の場所別自殺者数（平成 25 年から平成 30 年の合計値）

小金井市における自殺企図の場所別自殺者数は、「自宅等」が 78 人と最も多く、次いで「高層ビル」が 12 人、「山」が 3 人となっています。

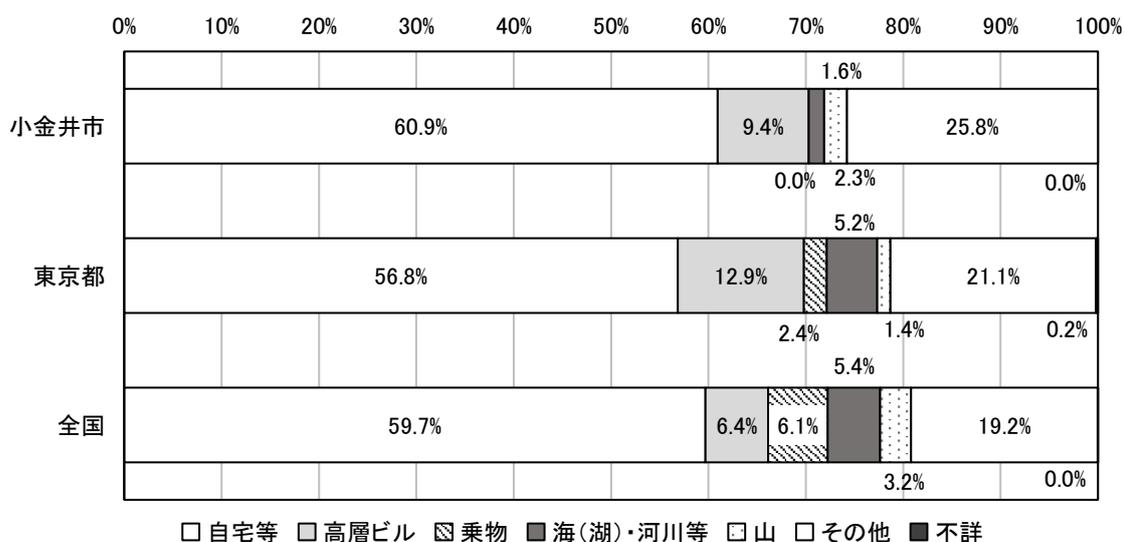
自殺企図の場所別自殺者数の割合を比較すると、「自宅等」において、小金井市は東京都・全国の割合を上回っています。

図表 小金井市における自殺企図の場所別自殺者数



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

図表 自殺企図の場所別自殺者数の割合の比較



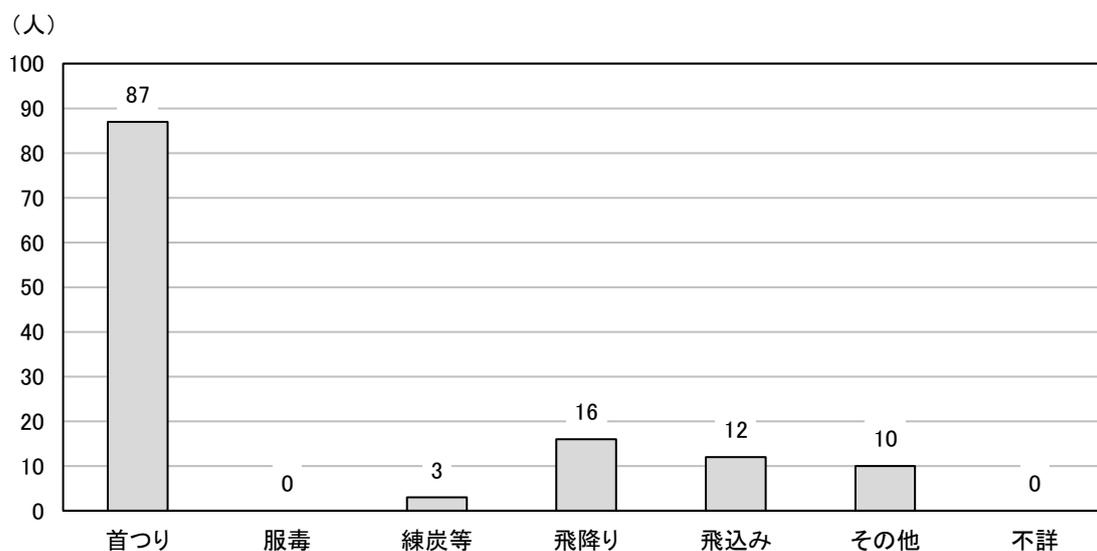
出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

## (8) 自殺の企図手段別自殺者数（平成 25 年から平成 30 年の合計値）

小金井市における自殺の企図手段別自殺者数は、「首つり」が 87 人と最も多く、次いで「飛降り」が 16 人、「飛込み」が 12 人となっています。

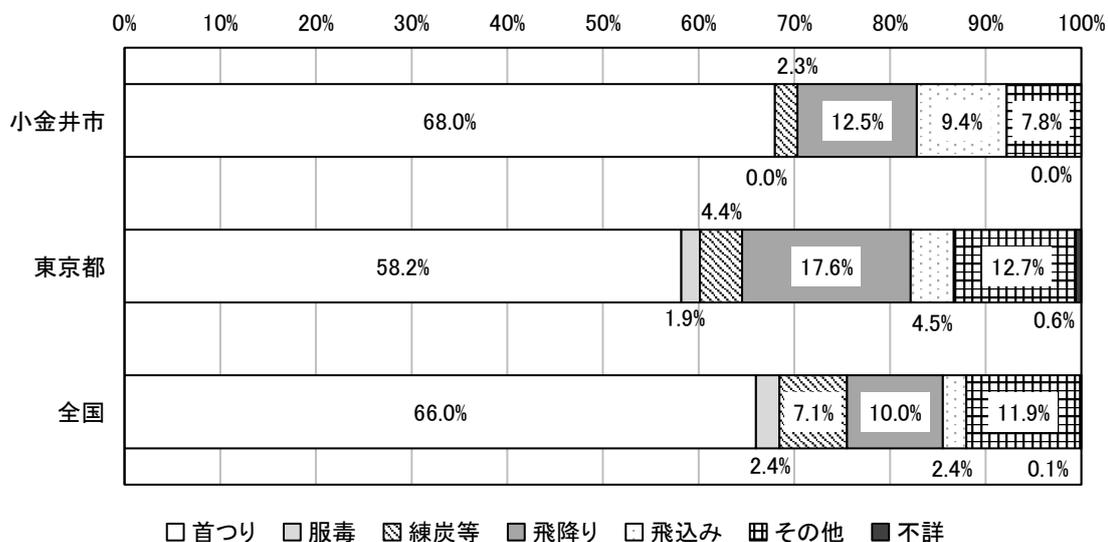
自殺の企図手段別自殺者数の割合を比較すると、「首つり」、「飛込み」において、小金井市は東京都・全国の割合を上回っています。特に、「飛込み」割合は東京都の 2 倍以上、全国の 3 倍以上となっています。

図表 小金井市における自殺の企図手段別自殺者数



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

図表 自殺の企図手段別自殺者数の割合の比較



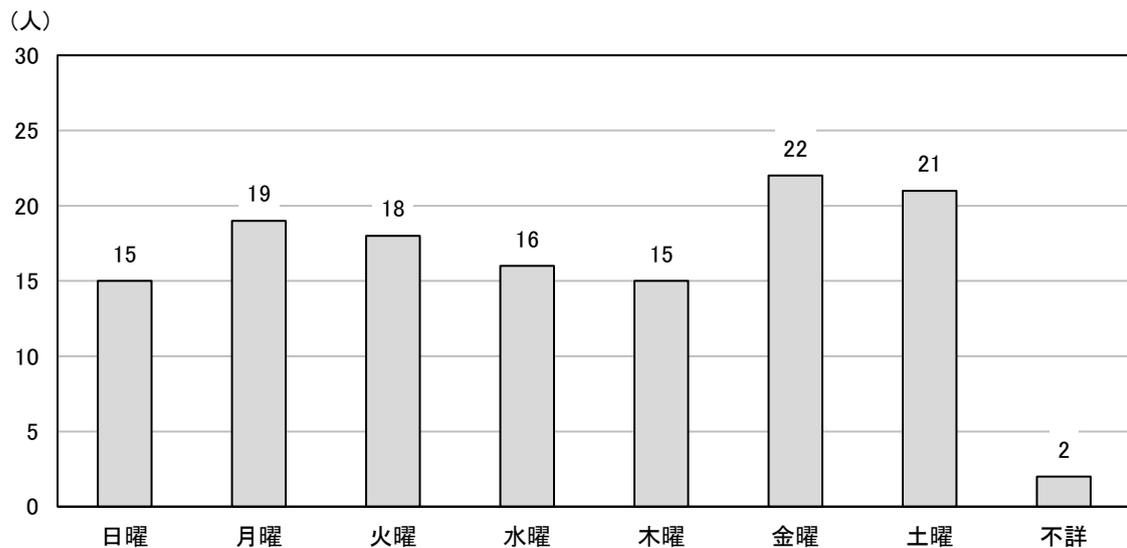
出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

## (9) 曜日別自殺者数（平成 25 年から平成 30 年の合計値）

小金井市における曜日別自殺者数は、「金曜」が 22 人と最も多く、次いで「土曜」が 21 人、「月曜」が 19 人となっています。

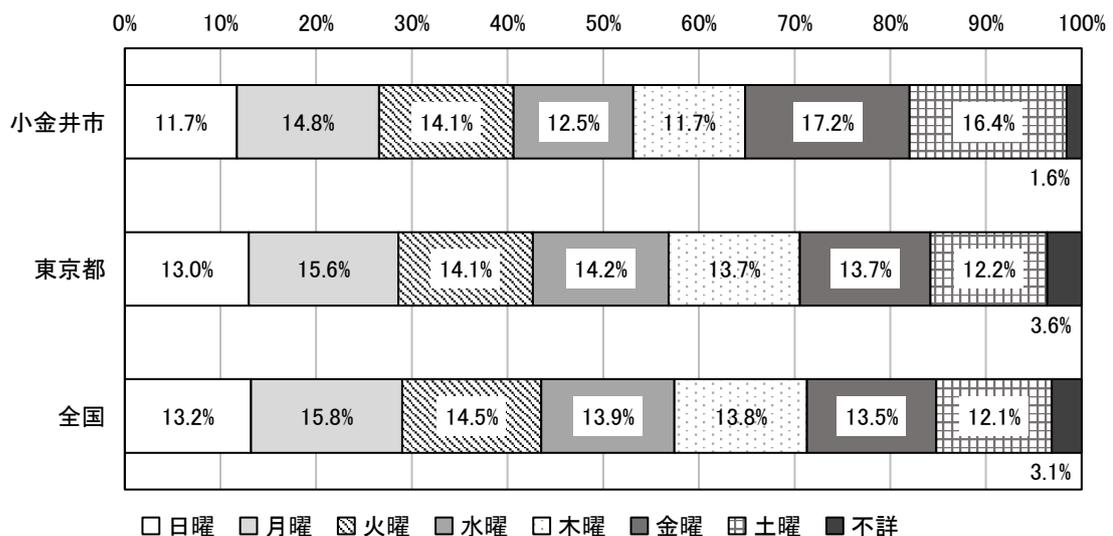
曜日別自殺者数の割合を比較すると、「金曜」、「土曜」において、小金井市は東京都・全国の割合を上回っています。

図表 小金井市における曜日別自殺者数



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

図表 曜日別自殺者数の割合の比較



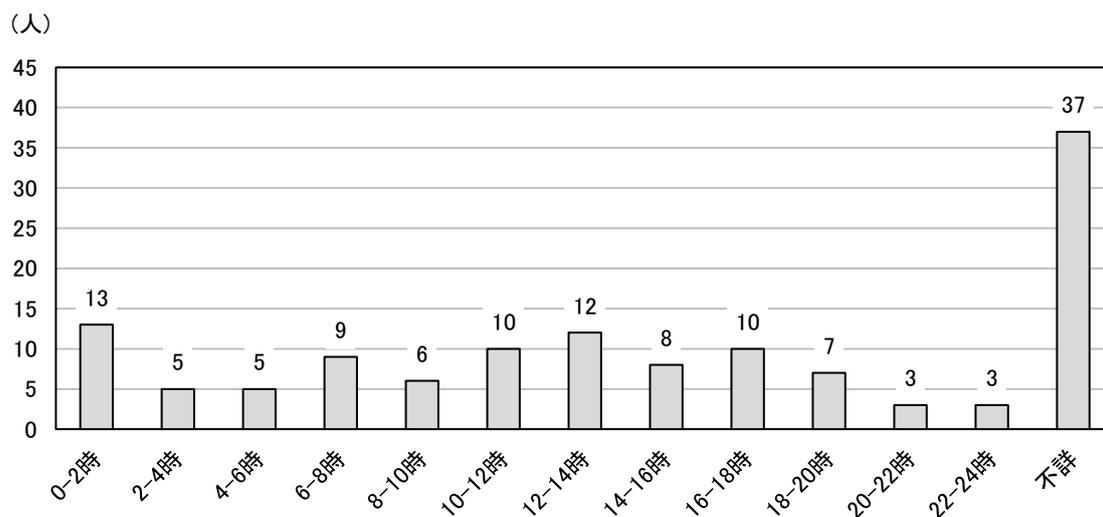
出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

## (10) 時間帯別自殺者数（平成 25 年から平成 30 年の合計値）

小金井市における時間帯別自殺者数は、「0-2 時」が 13 人と最も多く、次いで「12-14 時」が 12 人、「10-12 時」と「16-18 時」が 10 人となっています。

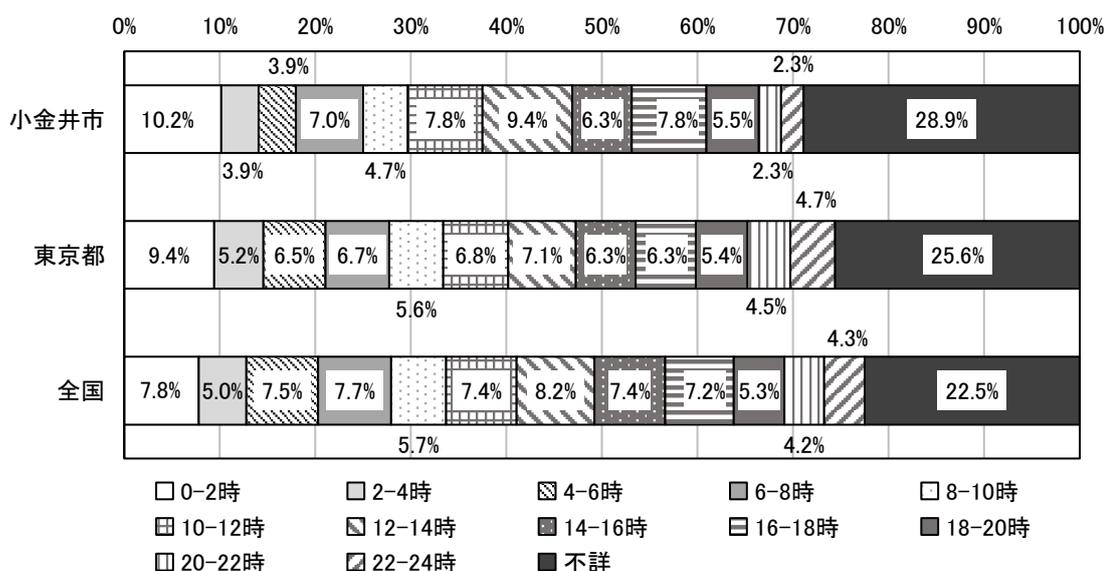
時間帯別自殺者数の割合を比較すると、「0-2 時」、「10-12 時」、「12-14 時」、「16-18 時」、「18-20 時」において、小金井市は東京都・全国の割合を上回っています。

図表 小金井市における時間帯別自殺者数



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

図表 時間帯別自殺者数の割合の比較



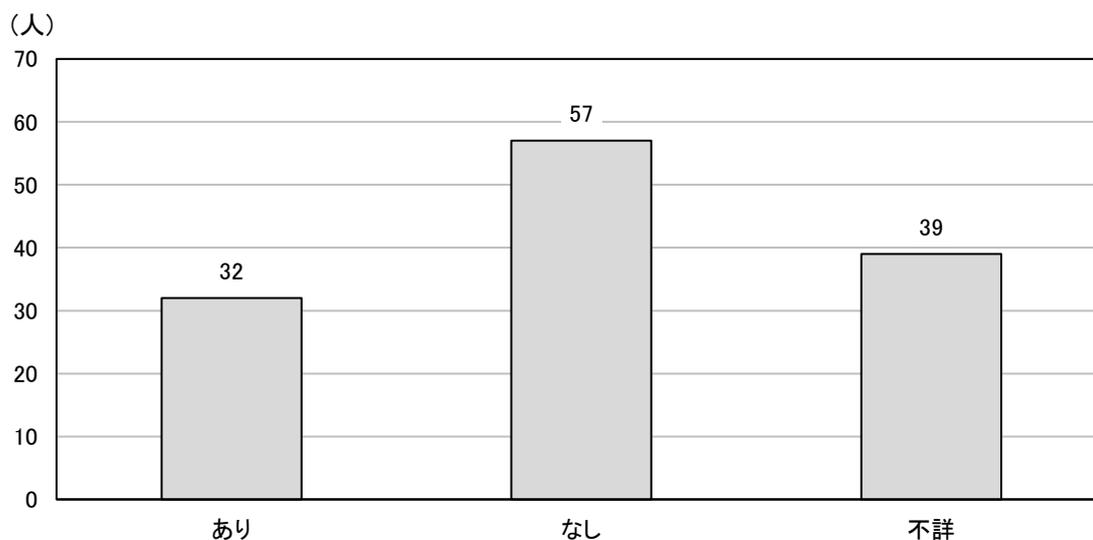
出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

## (11) 未遂歴の有無別自殺者数（平成 25 年から平成 30 年の合計値）

小金井市における未遂歴の有無別自殺者数は、未遂歴「あり」が 32 人、未遂歴「なし」が 57 人となっています。

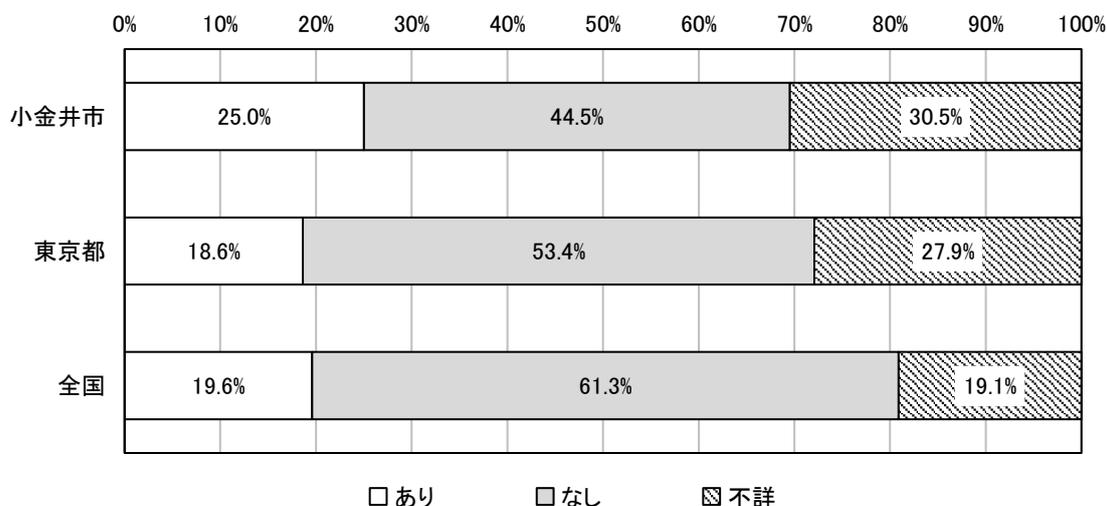
未遂歴の有無別自殺者数の割合を比較すると、小金井市における未遂歴「あり」の割合は東京都・全国を上回っています。

図表 小金井市における未遂歴の有無別自殺者数



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

図表 未遂歴の有無別自殺者数の割合の比較



出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

## (12) 年代別に見た死因の状況

小金井市における年代別に見た死因の状況は、20歳代において「自殺」が3人で1位となっており、40歳代において「自殺」が3人で2位、50歳代においては「自殺」、「心疾患」、「脳血管疾患」が各4人で2位となっています。

60歳代から80歳以上においては、「悪性新生物（腫瘍）」や「心疾患」といった項目が死因の上位を占めており、「自殺」は死因の上位5項目に入っていません。

年代別に見た死因の状況（平成29年）

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
1位	自殺 (3人)	悪性新生物 (腫瘍) (2人)	悪性新生物 (腫瘍) (9人)	悪性新生物 (腫瘍) (13人)	悪性新生物 (腫瘍) (46人)	悪性新生物 (腫瘍) (68人)	悪性新生物 (腫瘍) (138人)
2位	悪性新生物 (腫瘍) (2人)	心疾患、脳血管疾患 (各1人)	自殺 (3人)	自殺、心疾患、 脳血管疾患 (各4人)	心疾患 (8人)	心疾患 (26人)	心疾患 (101人)
3位					脳血管疾患 (6人)	肺炎 (9人)	老衰 (69人)
4位					肺炎 (3人)	不慮の事故 (5人)	脳血管疾患 (51人)
5位					糖尿病 (2人)	腎不全 (3人)	肺炎 (49人)

出典：平成30年版事業概要（東京都多摩府中保健所）

### (13) 対策が優先されるべき対象群の把握

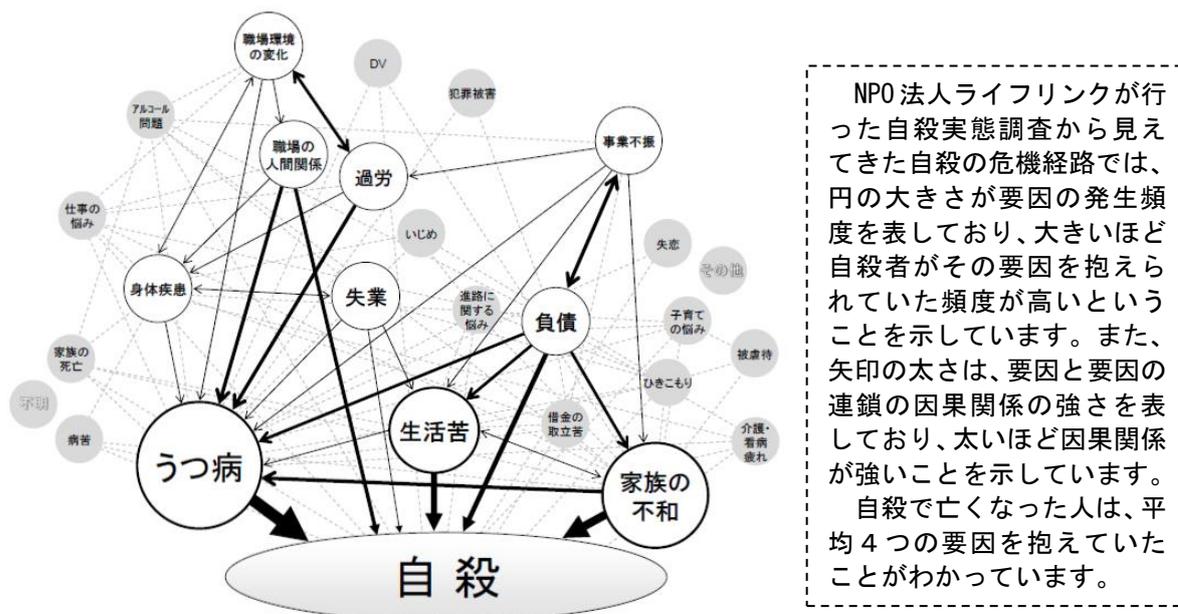
平成 25 年から平成 29 年の5年間で、小金井市における自殺者の多い属性（性別×年代別×仕事の有無別×同居人の有無別）は、以下の5区分となっています。

図表 地域の主な自殺の特徴（平成 25 年～平成 29 年合計）

上位 5 区分		自殺者数	割合	自殺死亡率	背景にある主な自殺の危機経路
1 位	男性 40～59 歳有職同居	13	12.3%	20.8	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
2 位	女性 60 歳以上無職同居	10	9.4%	19.2	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
3 位	男性 40～59 歳無職同居	9	8.5%	227.1	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺
4 位	男性 20～39 歳有職独居	8	7.5%	30.8	①【正規雇用】配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺 ②【非正規雇用】(被虐待・高校中退)非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺
5 位	男性 20～39 歳有職同居	8	7.5%	21.2	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺

出典：「地域自殺実態プロファイル【2018 更新版】」（自殺総合対策推進センター）

図表 自殺の危機経路



NPO 法人ライフリンクが行った自殺実態調査から見てきた自殺の危機経路では、円の大きさが要因の発生頻度を表しており、大きいほど自殺者がその要因を抱えられていた頻度が高いことを示しています。また、矢印の太さは、要因と要因の連鎖の因果関係の強さを表しており、太いほど因果関係が強いことを示しています。自殺で亡くなった人は、平均 4 つの要因を抱えていたことがわかっています。

出典：「自殺実態白書 2013」（NPO 法人ライフリンク）

## 2 小金井市における自殺者の特徴

ここまでを踏まえて、小金井市における自殺者の特徴を整理すると、以下のとおりです。

図表 小金井市における自殺者の特徴

- ① 平成 30 年の自殺死亡率は 18.3 で、東京都・全国の 16.2 を上回っています。
- ② 平成 25 年から平成 30 年にかけて、年間平均で 21.3 人が自殺をしています。また、「男性」が「女性」よりも自殺者数が多い傾向にあります。
- ③ 「20 歳代」の自殺者数が最も多く 30 人となっています。また、「20 歳未満」や「20 歳代」の割合において小金井市は東京都・全国を上回っています。
- ④ 同居人「あり」の自殺者数が同居人「なし」より多く、同居人「あり」の割合において小金井市は東京都・全国を上回っています。
- ⑤ 職業別自殺者数は、「その他の無職者」が 43 人と最も多くなっています。「学生・生徒等」の割合において、小金井市は東京都の 2 倍以上、全国の 3 倍以上となっています。
- ⑥ 原因・動機別自殺者数は、「健康問題」が 65 人と最も多くなっています。「勤務問題」、「学校問題」の割合において、小金井市は東京都・全国を上回っています。
- ⑦ 自殺企図の場所は、「自宅等」が 78 人と最も多くなっています。また、「自宅等」の割合において、小金井市は東京都・全国を上回っています。
- ⑧ 自殺の企図手段は、「首つり」が 87 人と最も多くなっています。「飛び込み」の割合において、小金井市は東京都の 2 倍以上、全国の 3 倍以上となっています。
- ⑨ 曜日別自殺者数は、「金曜」が 22 人と最も多く、次いで「土曜」が 21 人となっています。「金曜」、「土曜」の割合において、小金井市は東京都・全国を上回っています。
- ⑩ 時間帯別自殺者数は、「0-2 時」が 13 人と最も多くなっています。
- ⑪ 未遂歴「あり」の割合において、小金井市は東京都・全国を上回っています。
- ⑫ 平成 29 年における 20 歳代の死因の 1 位が自殺となっています。
- ⑬ 小金井市において自殺者が多い属性は、以下の 5 区分となっています。
  - 1 位：40～59 歳の男性で、有職者であり、同居人がいる人（自殺者全体の 12.3%）
  - 2 位：60 歳以上の女性で、無職者であり、同居人がいる人（自殺者全体の 9.4%）
  - 3 位：40～59 歳の男性で、無職者であり、同居人がいる人（自殺者全体の 8.5%）
  - 4 位：20～39 歳の男性で、有職者であり、独居の人（自殺者全体の 7.5%）
  - 5 位：20～39 歳の男性で、有職者であり、同居人がいる人（自殺者全体の 7.5%）